



ダイキン ルームエアコン

据 付 説 明 書




二次元バーコードは製造用コードです。

安全上のご注意

●据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。


 警告	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。	 注意	誤った据付けにより、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
---	--	---	--

●本文中に用いられる「絵表示」の意味は次の通りです。

	指示を守る		アース線接続		禁止
---	-------	---	--------	---	----

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

 警告	
<ul style="list-style-type: none"> ●据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。 お客様自身で据え付けられ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●据付工事は、この据付説明書に従って確実に進行。 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。 ●設置工事部品は、必ず付属品および指定の部品を使用する。 指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。 ●据付けは、重量に十分耐える所に確実に進行。 強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。 ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。 電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。 ●据付工事は、必ず電源を切って進行。 電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。 ●アース工事は確実に進行。 アース線は、ガス管や水道管、遊樂具、電話のアース線に接続しないでください。 アースが不完全な場合、感電や火災の原因になります。 ●漏電しゃ断器を取り付ける。 漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。 ●配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。 施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。 ●室内外ユニット間および電源の配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。 接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖カバーまたは右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。 カバーの取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。 ●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。 空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●指定冷媒(R410A)以外は使用しない。 機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。 ●ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。 圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。 冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。 ●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。 冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。 冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。 ●配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。 既存冷媒(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。 ●可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。 ひび割れや感電、引火の原因になります。

 注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。 万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまり、発火の原因になります。 ●ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。 不確実な場合は屋内に浸水し、家財などをめらす原因になることがあります。 ●室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。 鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。 けがの原因になることがあります。 ●フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。 フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。 ●室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。 小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

据付場所の選定

●据付場所は、お客様の同意を得て決定してください。

室内ユニット

- **室内ユニット据付図** の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 機械油などの油の蒸気が発生しない所。
(室内ユニットの寿命が短くなる可能性があります。)
- 冷(温)風が部屋全体に行きわたる所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。
(リモコンの受信距離が短くなる可能性があります。)

室外ユニット

- **室外ユニット据付図** の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
(降雪地では、雪でふさがれない所。)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない所。

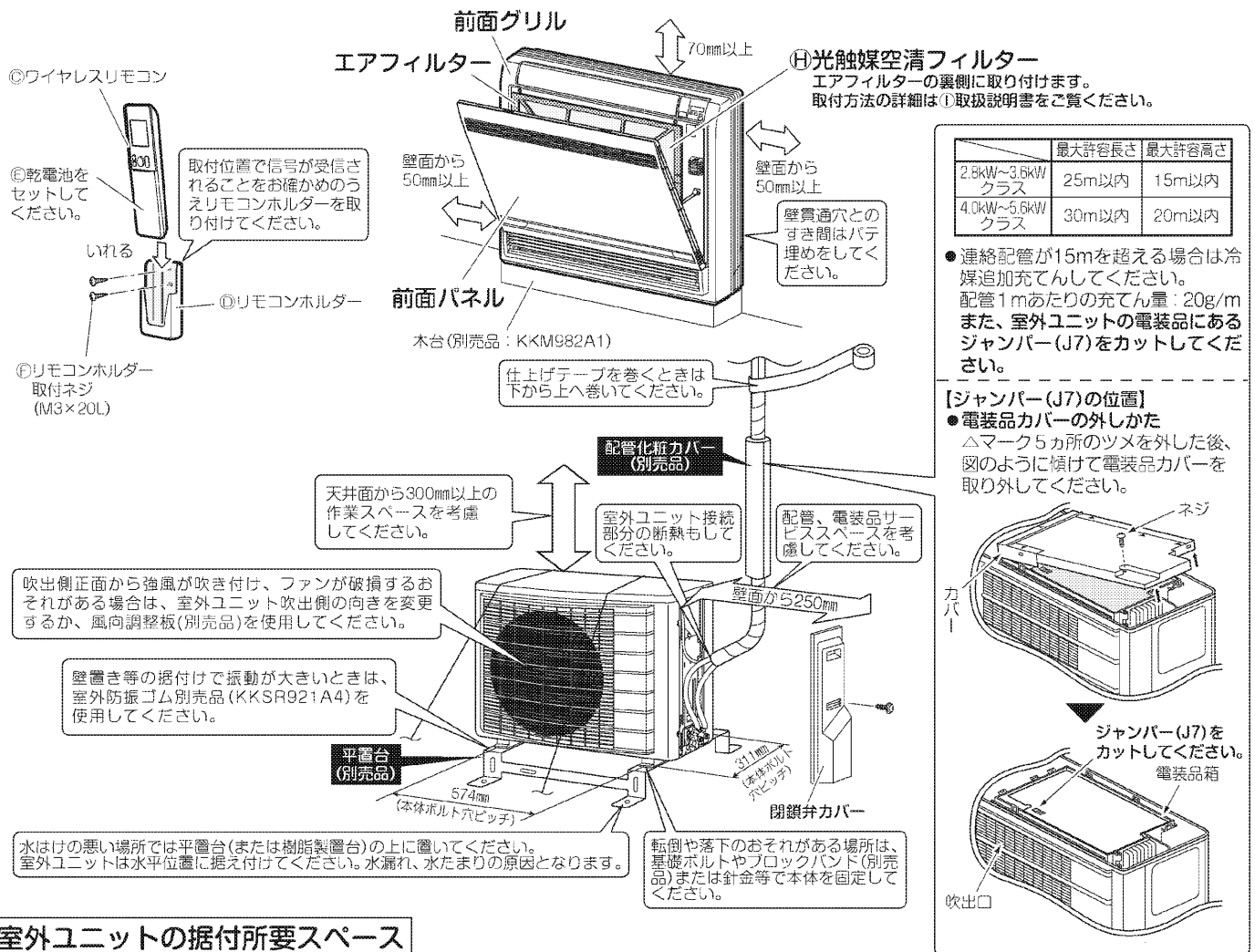
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けない所。
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあるため。)
- 海洋地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる可能性があります。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること。)
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。

リモコン

- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させ、リモコンの信号が受信できる位置に取り付けてください。

室内外ユニット据付図

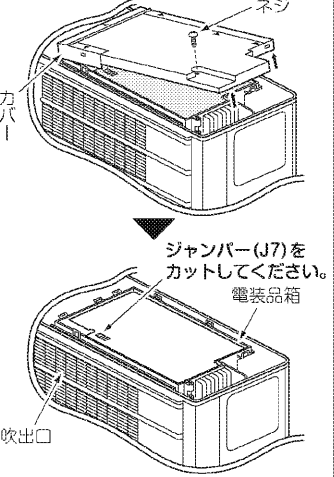
- 真空ポンプを使用しエアパージを行ってください。
- 移設をする場合は、必ずポンプダウンを行い、室外ユニットへ冷媒を回収してください。
- 室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。
- 本図はセパレート形を示しています。
- システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法などはBPユニットに付属の据付説明書に従ってください。



	最大許容長さ	最大許容高さ
2.8kW~3.6kWクラス	25m以内	15m以内
4.0kW~5.6kWクラス	30m以内	20m以内

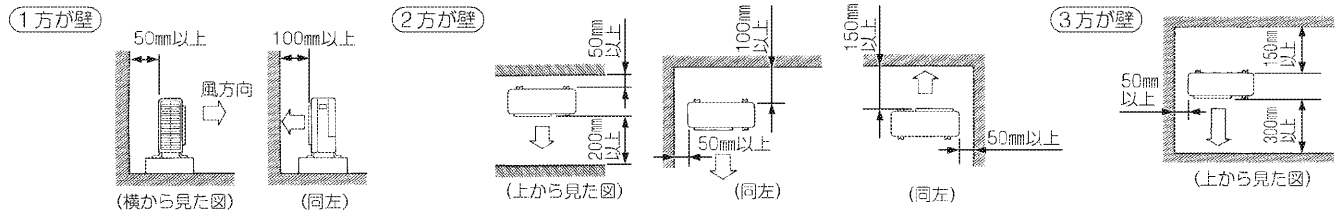
●連絡配管が15mを超える場合は冷媒追加充てんしてください。
配管1mあたりの充てん量: 20g/m
また、室外ユニットの電装品にあるジャンパー(J7)をカットしてください。

【ジャンパー(J7)の位置】
●電装品カバーの外しかた
△マーク5か所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。



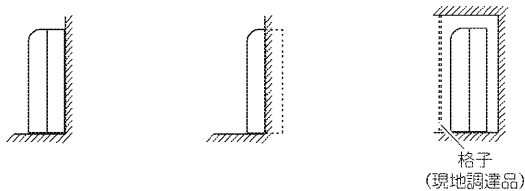
室外ユニットの据付所要スペース

- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室外ユニットの吸込口、および吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付けする場合は、下記パターンに従ってください。いずれの据付パターンでも、吹出側壁面高さは1.2m以下としてください。



室内ユニットの据付所要スペース

- 室内ユニットの設置パターンは、下図のように3形態が可能です。
【露出設置の場合】 【半埋設置の場合】 【埋込設置の場合】


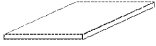
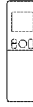





室外ユニット閉鎖弁カバーの取外し、取付けかた


- システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 取外しかた
①閉鎖弁カバーのネジを外します。(1本)
②下方へスライドし、外します。
- 取付けかた
①閉鎖弁カバーの上部を差し込み、取り付けます。
②ネジを締めます。(1本)

付 属 部 品

室内ユニット

㊸ドレンホース  1個	㊹断熱シート  2枚	㊺ワイヤレス リモコン  1個	㊻リモコン ホルダー  1個	㊼乾電池単4  2本
㊽リモコンホルダー 取付ネジ M3×20L 2本	㊾本体固定用 トラスタッピンネジ M4×25L 6本	㊿光触媒空清フィルター  2個	①取扱説明書 ②据付説明書 ③保証書 各1部	

室外ユニット

①ドレンソケット  1個

●システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書を確認してください。

現 地 調 達 部 材

現地調達部材

品 名	仕 様
ドレン配管 (硬質塩ビパイプ)	VP20(外径φ26mm)その他必要に応じてソケット、エルボなど
接 着 剤	塩ビ系接着剤
断 熱 材	配管断熱用、ドレン配管断熱用それぞれ肉厚10mm以上の発泡ポリエチレン
内 外 連 絡 電 線	VVFケーブル (φ1.6mm-3芯 いずれか φ2.0mm-3芯)
冷 媒 配 管	室内ユニットの据付け② 5 冷媒配管の接続 を参照してください。
本体固定用当て木	室内ユニットの据付け④ 3 本体固定用当て木の設置 を参照してください。

別売部品

品 名	品 番
木 台	KKM982A1

穴 あ け

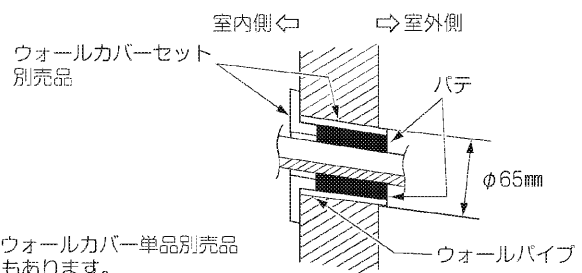
⚠警告

特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールパイプとウォールカバーを必ず使用してください。発熱、感電、火災の原因になります。

⚠注意

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをしてください。水漏れの原因となります。

- ①壁にφ65mmの穴を、室外側が下がり勾配にあけます。
- ②ウォールパイプを穴に通します。
- ③ウォールカバーをウォールパイプに差し込みます。
- ④パテを使って仕上げます。

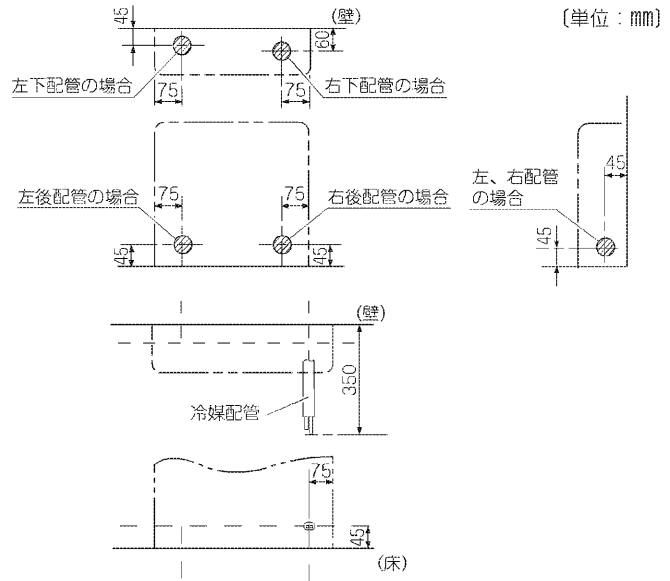


室内ユニットの据付け①

露出設置の場合

1 冷媒配管工事

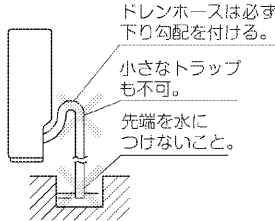
- 右図の○の所に貫通穴をあけてください。
詳細は「穴あけ」を参照してください。
- 配管取出し方向によって、貫通穴の位置は異なります。
- 配管は「室内ユニットの据付け②」5「冷媒配管の接続」を参照して、選定してください。
- 室内ユニットの配管接続をやりやすくするために、配管は多少前後左右自由に動かせる状態にしてください。
- 配管の先端はゴミ、水分の侵入防止のため、キャップあるいはテープで密封してください。
- 配管長さは、2.5m以上を推奨します。



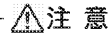
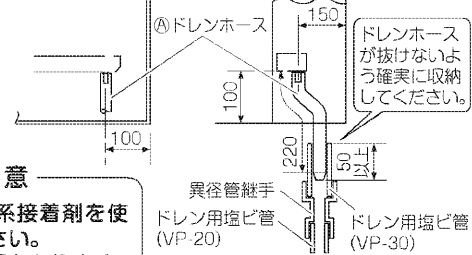
2 ドレン配管工事

- ドレン配管工事は、特に【図A】の点に注意してください。
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP20(外径26mm、内径20mm)を使用してください。
- 室内ユニットにドレンホース(接続口外径18mm 長さ220mm)を付属していますので、【図B】位置までドレン配管を準備してください。
- 屋内部のドレン配管はけづる防止の為、肉厚10mm以上の断熱材で断熱してください。**
- 配管工事終了後、**ドレン排水がスムーズにできるか確認**した後、テープなどで密封してゴミの侵入防止をしてください。

【図A】



【図B】



注意
接着は塩ビ系接着剤を使用してください。
水漏れの原因となります。

3 室内ユニットの据付け

- ①室内ユニットの準備をします。
- 前面パネルを開いて、ネジ4本を取り外し、前面グリルを手前に引きながら取り外します。
- 樟木がある場合は、底フレームのスリット部をニッパーで取り除いてください。(左右共)

ケーシングの取外しかた

- ①ケーシング取付ネジを取り外します。
- ②上部ケーシングを取り外し、側部ケーシングを取り外します。

- 左・右配管の場合も同様にして底フレームとケーシングのスリット部をニッパーで取り除いてください。

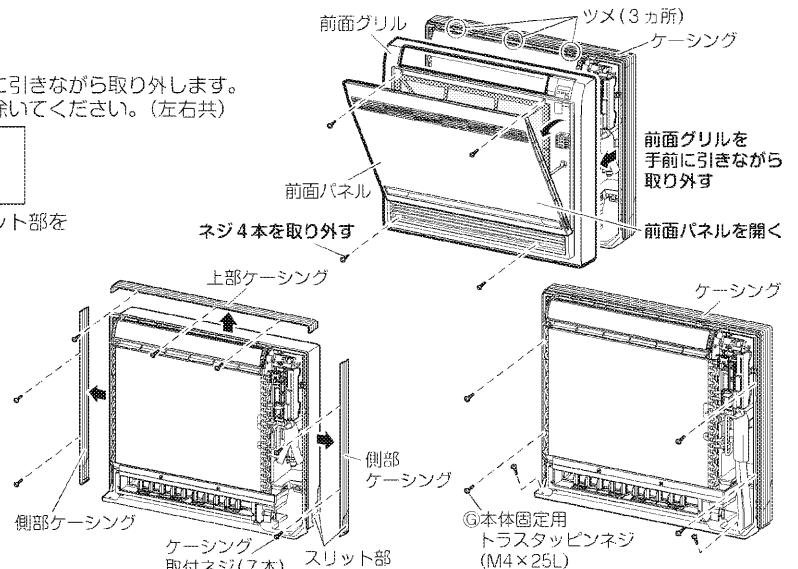
②室内ユニットを設置します。

- 室内ユニットを設置した後、床および壁に⑥本体固定用トラスタッピンネジ6本(M4×25L)で固定します。
- 室内ユニットの水平出しはケーシング天面を利用してください。

- ③冷媒配管、ドレン配管の接続作業後、貫通部にすき間がないようにパテで埋めてください。

すき間があると、冷媒配管、ドレン配管の結露および虫等の侵入の原因になります。

- ④全ての作業が終わった後、ケーシング、前面グリル、前面パネルをもとどおりに取り付けます。

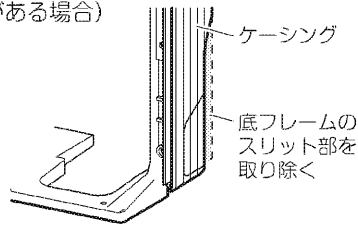


室内ユニットの据付け②

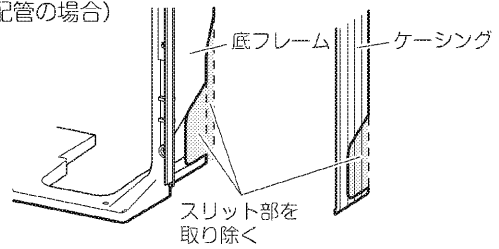
4 配管、ホース、電線の引き回し

- 下記配管取出し方向により、配管、ドレンホースの引き回しを行ってください。
- ドレンホースは必ず下り勾配をとってください。

(幅木がある場合)

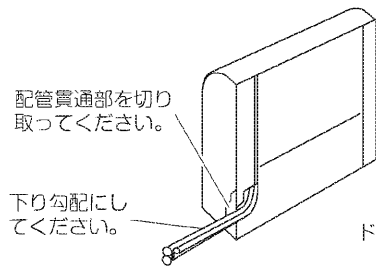


(左・右配管の場合)

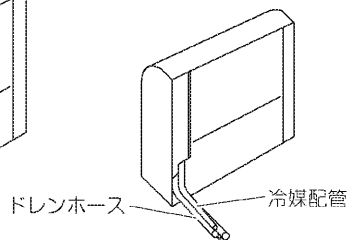


右、右後、右下配管の場合

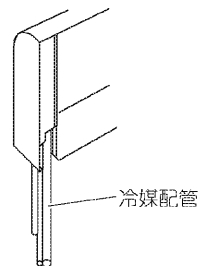
右配管の場合



右後配管の場合



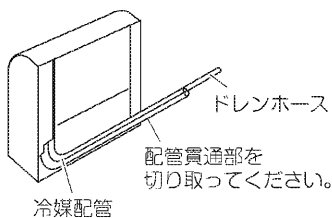
右下配管の場合



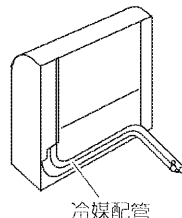
- ① 配管類を壁貫通穴より引出します。
- ② 配管を接続します。(断熱方法と締付トルクについては、**室内ユニットの据付け②** **5 冷媒配管の接続** を参照) (必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。)

左、左後、左下配管の場合

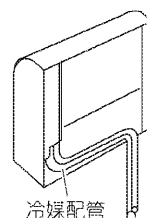
左配管の場合



左後配管の場合



左下配管の場合



- ① 冷媒配管を引き込み、配管を接続します。

5 冷媒配管の接続

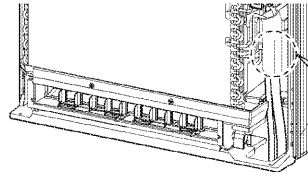
- 年数の経過によるフレアナットの腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものをご使用ください。
- フレアナットの割れ防止およびガス漏れ防止のため締付け時はトルクレンチをご使用ください。
- ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油を塗ってください。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。(冷凍機油はR410Aのものをご使用ください。)
- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3~4回転ねじ込み、そのあと所定のトルクでしっかりと締め付けます。(必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。)



室内ユニットの据付け③

6 ガス漏れ確認

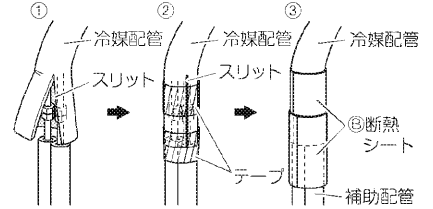
- ガス漏れ確認は、エアバージ後、行ってください。
- エアバージについては「**室外ユニットの据付け②**」
- ③「**エアバージとガス漏れ確認**」を参照してください。



- 部分の漏れ確認を行います。
- 石けん水を塗り注意深くチェック。
- チェック後、いらない石けん水をふき取る。

7 接続配管の仕上げ

- 仕上げは、⑥「**ガス漏れ確認**」後、行ってください。
- 液・ガス管接続部を断熱してください。
- ①現地配管の断熱部を接続部に合わせてカットしてください。
- ②冷媒配管側のスリット部と補助配管の突合せ部をすき間のないようにテープで固定してください。
- ③付属の③断熱シートでスリット部と突合せ部をすき間のないように覆ってください。

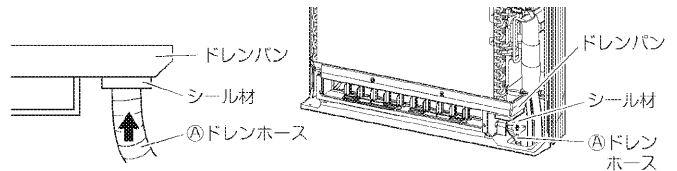


配管の地が見えないように、確実に断熱してください。断熱が不完全ですと水漏れの原因となります。

前面グリルが浮き上がらないように、奥に押し込んでください。

8 ドレンホースの接続

- ①④ドレンホースをドレンパンの接続口に差し込みます。
- ④ドレンホースは接続口のシール材に密着するまで差し込んでください。



9 配線工事

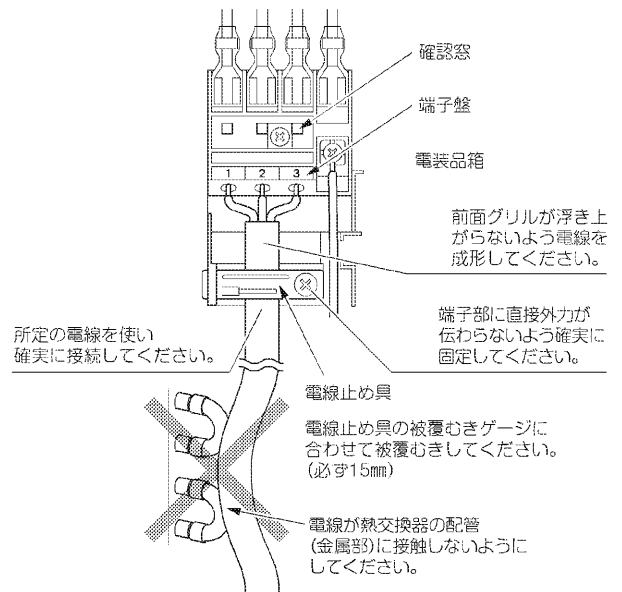
警告

- 据付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。
- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まないでください。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください) 発熱・火災の原因となります。
- 設置場所によっては、漏電しゃ断器の取付けが必要です。漏電しゃ断器は通常タイプをご使用ください。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」[内線規程]に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、火災、感電の原因となります。

- ①前面グリルを取り外します。
- ②センサー取付板を開けて、前面電装品カバーを取り外します。(裏面の**薄形リモコンを取り付ける場合**を参照してください。)
- ③電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ④電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥に当たるまで確実に差し込みます。
- ⑤確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ⑥電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定します。
- ⑦電線が熱交換器の配管(金属部)に接触しないように配線します。
- ⑧前面グリルが浮き上がらないよう電線を成形し、奥に押し込みます。
- ⑨前面電装品カバーを取り付けます。

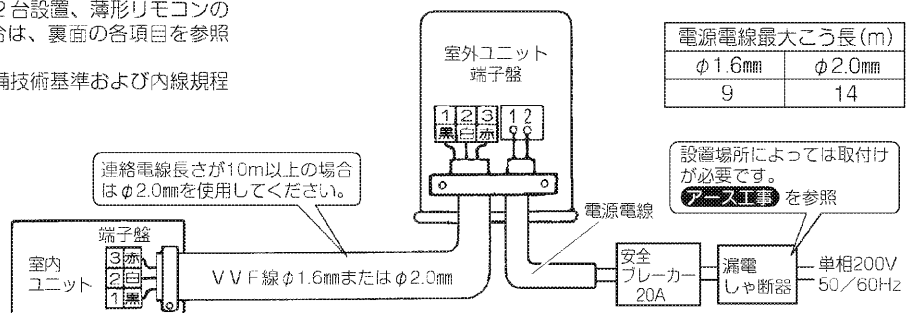
- 室内アース工事、同じ部屋に室内ユニットの2台設置、薄形リモコンの取り付け、HAシステムとの接続をされる場合は、裏面の各項目を参照してください。
- 電源電線の最大こう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工してください。

連絡電線はVVF線φ1.6mmまたはφ2.0mmを使用してください。



電源電線最大こう長(m)	
φ1.6mm	φ2.0mm
9	14

設置場所によっては取付けが必要です。**アース工事**を参照



連絡電線長さが10m以上の場合はφ2.0mmを使用してください。

安全ブレーカー 20A 漏電しゃ断器 単相200V 50/60Hz

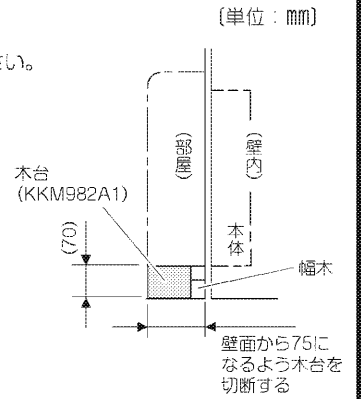
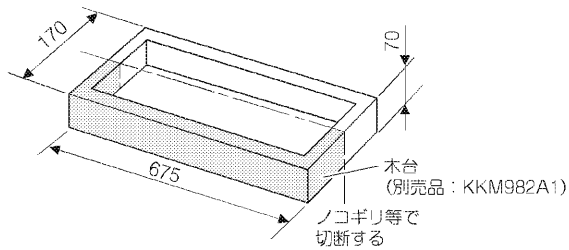
室内ユニットの据付け④

半埋設置の場合

半埋設置の場合、特有の事項のみ記載しています。それ以外の事項については「露出設置の場合」を参照してください。

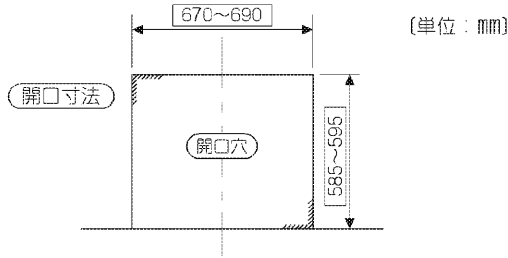
1 木台(別売品: KKM982A1)の準備

- 幅木がある場所への据付けは、木台(別売品: KKM982A1)を使用してください。
- 据付場所選定後、幅木の出代に合わせて、木台の奥行調節をしてください。



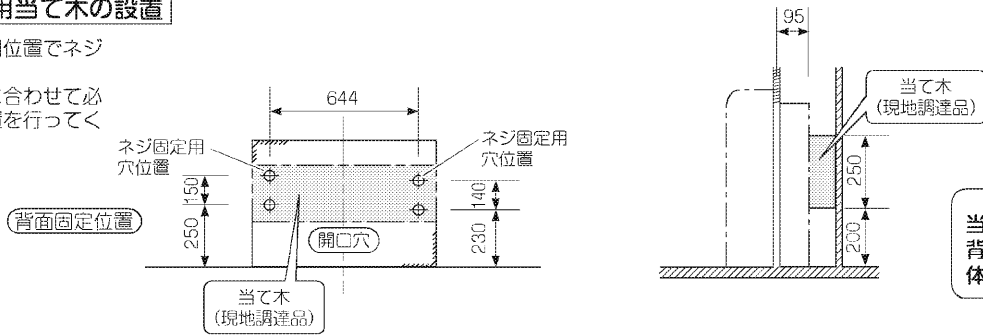
2 壁開口

- 右記寸法に従って壁開口穴をあけてください。



3 本体固定用当て木の設置

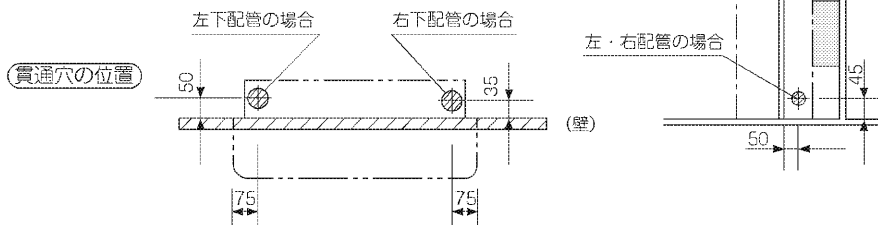
- 本体背面は下図位置でネジ固定できます。壁内奥行寸法に合わせて必ず当て木の設置を行ってください。



注意
当て木を設置しないと、背面にすき間ができ、本体の固定ができません。

4 冷媒配管工事

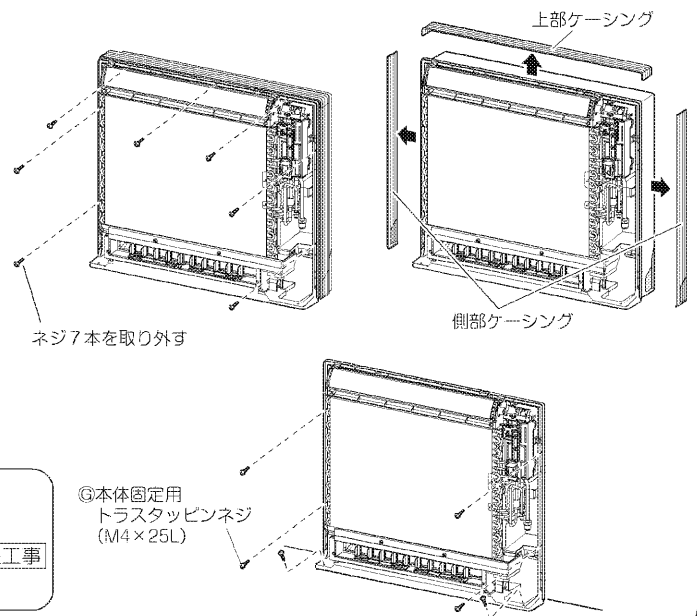
室内ユニットの据付け① 1 冷媒配管工事 を参照してください。



5 室内ユニットの据付け

- ①前面グリルを取り外します。
(室内ユニットの据付け① 3 室内ユニットの据付け を参照してください。)
- ②ケーシングを取り外します。
●ケーシング固定ネジ7本を取り外します。
●上部ケーシングを取り外し、側部ケーシングを取り外します。
- ③室内ユニットを設置します。
●室内ユニットを壁開口穴に設置した後、下面(木台)および背面の当て木に◎本体固定用トラスタッピンネジ6本(M4×25L)で固定します。
●室内ユニットの水平出しは、ドレンパン縁を利用してください。

室内ユニットと壁面とのすき間ができない様に固定してください。



上記以外の 冷媒配管工事 | ドレン配管工事 | 室内ユニットの据付け | 配管、ホース、電線引き回し | 冷媒配管の接続 | ガス漏れ確認 | 接続配管の仕上げ | ドレンホースの接続 | 配線工事 については各々「露出設置の場合」を参照してください。

◎本体固定用トラスタッピンネジ(M4×25L)

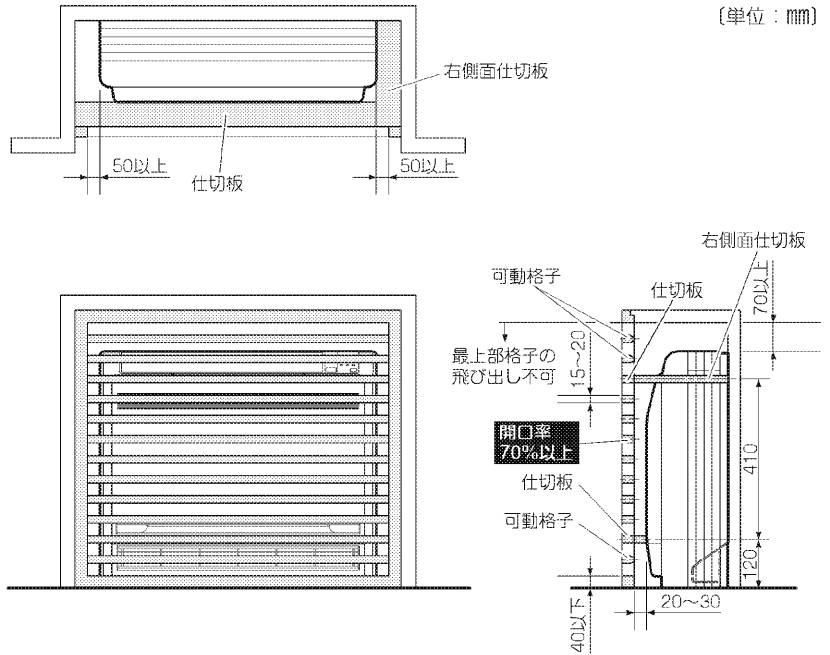
室内ユニットの据付け⑤

埋込設置の場合

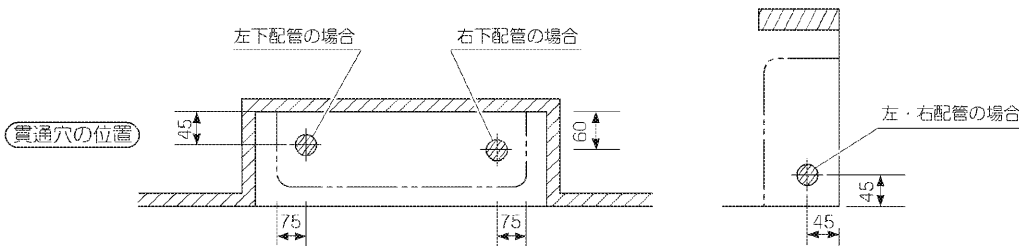
埋込設置の場合、特有の事項のみ記載しています。それ以外の事項については「露出設置の場合」を参照してください。

埋込設置の場合は、次の基準を守ってください。冷えない、暖まらないおよび家屋構造の結露などの原因となります。

- 冷温風のさまたげにならないように、本体と天面の間隔を十分にとってください。
- 吹出口と吸込口の間には、仕切板を入れてください。
- 右側面には、仕切板を入れてください。
- 上吹き制限スイッチの切換えを行ってください。
- 吹出口の格子は、冷温風の風向を調節できるように可動格子にしてください。
- 格子の寸法は、開口率70%以上になるように、決定してください。



1 冷媒配管工事



2 上吹制限スイッチの切換え

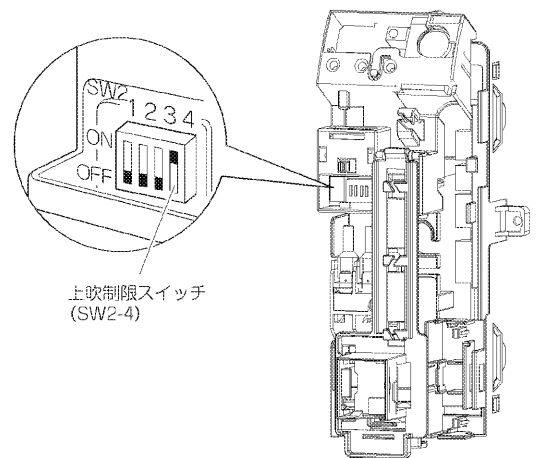
●埋込設置の場合は、上吹制限スイッチ(SW2-4)を「ON：入」に切り換えて、吹出角度の上制限を行ってください。

- ①前面グリルを取り外します。
- ②電装箱プリント基板上にある上吹制限スイッチ(SW2-4)を「ON：入」にします。
- ③前面グリルを取り付けます。

●スイッチ設定方法と使いかた

スイッチ番号	SW2-1	SW2-2	SW2-3	SW2-4
設定機能	アドレス	リモコン切換	他室	上吹制限
ON	2	ワイヤード	切	入
OFF	1	ワイヤレス	入	切
使いかた	同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合「2」にする	薄形リモコンを接続する場合「ワイヤード」にする	他室から自室の操作を禁止したい場合「切」にする	埋込設置の場合「入」にして上吹角度を制限する
出荷時の設定	「1」	「ワイヤレス」	「入」	「切」

- 他室スイッチ(SW2-3)は、システムマルチ用室内ユニット(他室運転機能つき)の場合のみ有効です。
- 他室「切」の設定はリモコンからでも行うことができますので、他室スイッチ(SW2-3)は通常「入」のままにしておいてください。



上記以外の「冷媒配管工事」「ドレン配管工事」「室内ユニットの据付け」「配管、ホース、電線引き回し」「冷媒配管の接続」「ガス漏れ確認」「接続配管の仕上げ」「ドレンホースの接続」「配線工事」については各々「露出設置の場合」を参照してください。

▲注意

上吹制限スイッチは必ず「ON：入」にしてください。「OFF：切」のままですと、冷えない、暖まらないおよび家屋構造の結露などの原因となります。

(裏面につづく)

室外ユニットの据付け①

- **システムマルチの場合** マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合** BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1 室外ユニットの据付け

△注意

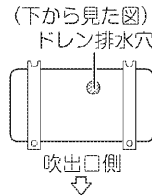
室外ユニットは、小動物(虫やカエルなど)のすみかになるような場所には設置しないでください。(例えば、落ち葉の多い所など)小動物が侵入し発煙・発火の原因になることがあります。

また、侵入することを減らすために「置台」を必ず使用し、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

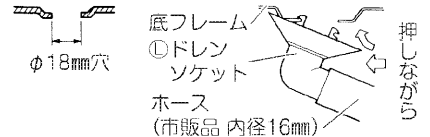
- 室外ユニットの据付けは、**据付場所の選定**、**室内外ユニット据付図**を参照してください。
- ドレン処理が必要な場合、下記要領でドレン工事を行ってください。

ドレン工事

- ドレン排水するときは、①ドレンソケットを使用してください。
- 排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れてください。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にしてください。(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、暖房効果が損なわれることがあります。)



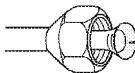
①ドレンソケットの取付け



2 冷媒配管の接続

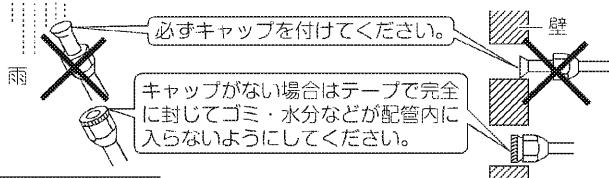
- 年数の経過によるフレアナットの腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものをご使用ください。
- フレアナットの割れ防止およびガス漏れ防止のため、締付け時はトルクレンチをご使用ください。
- ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油を塗ってください。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しないでください。(冷凍機油はR410Aのものをご使用ください。)
- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手まわしで3~4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。

フレアナット締付トルク		弁付締付トルク	サービスポート締付トルク
ガス側(配管径 9.5mm) 32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm)	液側(配管径 6.4mm) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm)	ガス側(配管径 9.5mm) 液側(配管径 6.4mm) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)	10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm)
ガス側(配管径 12.7mm) 49.5~60.3N・m (505~615kgf・cm)		ガス側(配管径 12.7mm) 液側(配管径 6.4mm) 48.1~59.7N・m (490~610kgf・cm) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm)	



冷媒配管工事について

- 配管内にゴミ・水分を入れないでください。
- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。



配管と断熱の選定

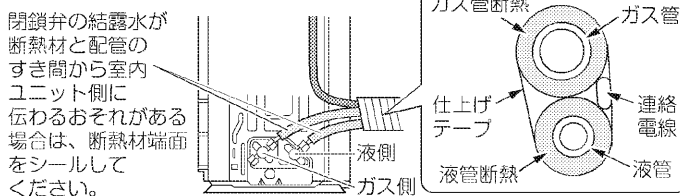
- 配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。
- 市販の銅管使用の場合
仕様C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10m以下
- 断熱材質：発泡ポリエチレンフォーム
熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになりますからそれに耐えるものを使用願います。)
- 液管、ガス管共必ず断熱してください。断熱寸法は下記に従ってください。

ガス管	液管	ガス管断熱	液管断熱
外径9.5mm(※1)	外径6.4mm	内径12~15mm(※3)	内径8~10mm
肉厚0.8mm	肉厚0.8mm	肉厚 10mm以上	肉厚 10mm以上
曲げ半径 30mm以上(※2)	曲げ半径 30mm以上	-	-

● 5.6kWクラス以上の場合…(※1)12.7mm、(※2)40mm以上、(※3)14~16mm

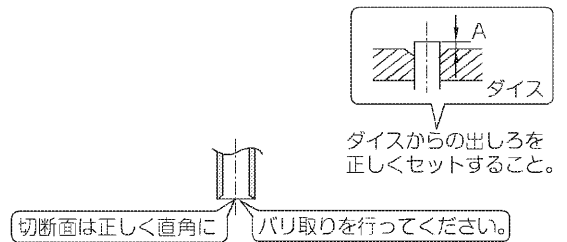
- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱してください。

配管のまとめ図



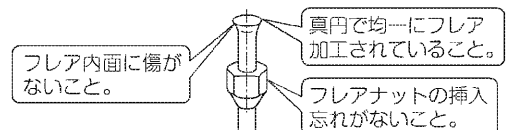
フレア加工について

- ①パイプカッターで配管を切断します。
- ②切粉や異物が配管内に入らないよう、切断面を下にしてバリ取りを行います。
- ③フレアナットを配管に挿入します。
- ④フレア加工を行います。



	R410A用フレアツール	従来のフレアツール	
	クラッチ式	クラッチ式(リジッド)	ウイングナット式(インベリアル)
A	0~0.5mm	1.0~1.5mm	1.5~2.0mm

- ⑤フレア加工が正しく出来ているかチェックします。



△警告

フレア加工は正しく確実に行ってください。不備があると冷媒ガスが漏れる原因になります。

室外ユニットの据付け②

3 エアパーズとガス漏れ確認

警告

- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気をしてください。
- 冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させないでください。
- ガス漏れ確認を必ず行ってください。

地球環境保護の観点から、エアパーズは、真空ポンプをご使用ください。

- R410A専用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使ってください。
- 閉鎖弁の弁棒操作用に六角レンチ(対辺4mm)を用意してください。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付けてください。

①ガス閉鎖弁のサービスポートに、ゲージマニホールドのチャージホース突起側(虫ピンを押す側)を接続します。



②ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開、高圧側バルブ(Hi)を全閉にします。(高圧バルブは以降操作しません。)



③真空引きを行い、連成計が -0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認します。※1



④ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にし、真空ポンプを停止させます。(1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。)*2



⑤液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。



⑥液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に 90° 開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行います。ガス漏れ確認は、室内ユニット側はフレア部周辺を、室外ユニット側はフレア部周辺、弁棒周辺を石けん水を塗布してチェックします。チェック後はていねいにふき取ります。



⑦ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全開にします。(弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。)

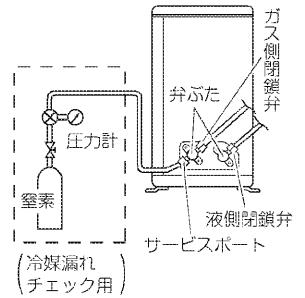


⑧液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付けます。

気密試験方法

気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。

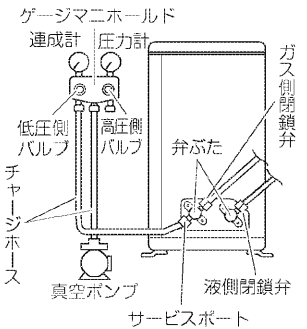
- 室外ユニット閉鎖弁は全閉のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認してください。気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧して行ってください。(4.17MPa)
- 気密試験後は、真空ポンプを使用して窒素を回収してください。



※1 配管長と真空ポンプ運転時間

配管長	15m以内	15mを超える
運転時間	10分以上	15分以上

- ※2 連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられます。各接続部の点検、およびナットを一旦ゆるめ締め直した後、再度②~④の操作を行ってください。



フロンについて



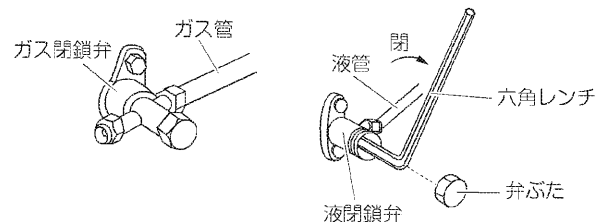
家庭用エアコンには最大で CO_2 (温暖化ガス) 3,600kg(マルチシステムの場合は10,500kg)に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを、注意喚起するための表示です。

ポンプダウン運転について

家電リサイクル法により、冷媒フロン回収を実施します。撤去時にはポンプダウンの上、閉鎖弁をしっかりと閉めて指定取り引き場所に持ち込んでください。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外します。
- ②強制冷房運転を行います。
- ③5~10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じます。
- ④2~3分後、ガス閉鎖弁を閉じて、強制冷房運転を停止します。



注意

圧縮機の故障の原因になりますので、ポンプダウンは必ず強制冷房運転で行ってください。液閉鎖弁を閉じた後、3分以内にガス閉鎖弁を閉じ、強制冷房運転を停止してください。

強制冷房運転のしかた

- ①室内ユニットの運転/停止ボタンを5秒以上押し続けます。(運転を開始します。)
- 強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの運転/停止ボタンを押してください。

室外ユニットの据付け③

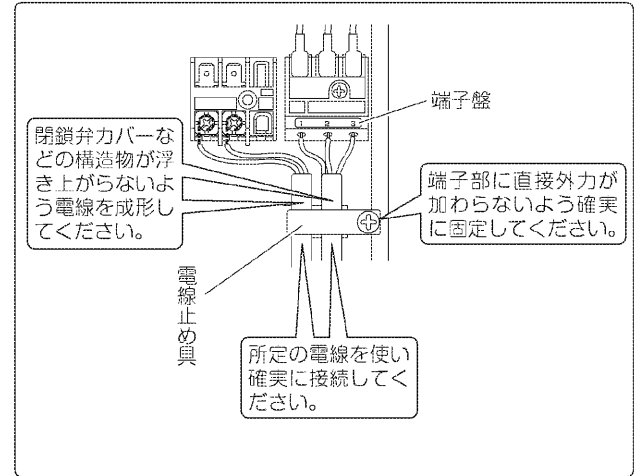
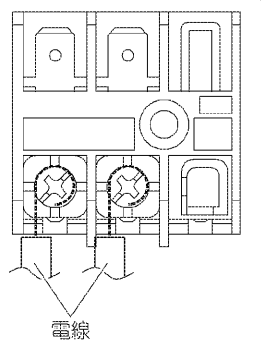
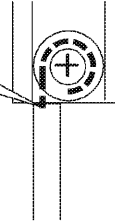
4 配線工事

● 連絡電線の取付けは、**室内ユニットの据付け③** 9 配線工事 に準じます。

電源端子盤に接続する場合は、端子盤のネジに、必ず右巻きで巻き付けてください。

- 端子のネジはしっかり締め付けてください。
- 端子盤への差込みかたは右図のようになっています。
- 端子部の被覆むきは下図を参照してください。

被覆むきはここまで
被覆むきが長いと感電、漏電の原因になります。



電源端子盤 連絡端子盤

● 室外アース工事は、**アース工事** を参照してください。

5 試運転

● 正しく据付け出来たか試運転を行い確認してください。

● 確認項目をチェックしてください。

試運転と確認 を参照してください。

アース工事

警告

室内または室外ユニットのどちらか一方から、アース工事を行ってください。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合、感電や火災の原因になることがあります。

接地の基準

- 接地の基準は、電源電圧、設置場所により異なります。
下表に従って工事を行ってください。

電源	設置場所	水気のある場所	湿気のある場所	乾燥した場所
	エアコン種類			
対地電圧が 150V以下	単相3線式200Vの機種		D種接地工事が必要。	D種接地工事は法的には除外されていますが、安全のため接地工事をしてください。
対地電圧が 150Vを超える	3相200V機種および 単相2線式200Vの機種	漏電しゃ断器を取り付け、さらにD種接地工事が必要。		

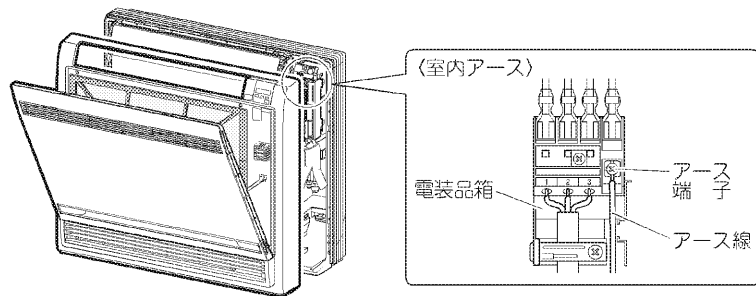
D種接地工事について

- 電気工事士の方が行ってください。
- 接地抵抗は必ず100Ω以下にしてください。ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が100mA以下で動作時間が0.2秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は500Ω以下にしてください。

アース工事のしかた

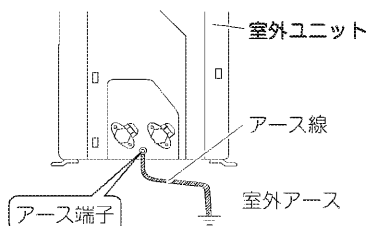
● 室内アースの場合

- ① 前面グリルを外します。
- ② センサー取付板を上げて前面電装品カバーを取り外します。
- ③ アース線をアース端子に取り付けます。



● 室外アースの場合

- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
 - **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ① 閉鎖弁カバーを外します。
 - ② アース線をアース端子に接続します。



必要な
ときに

薄形リモコンを取り付ける場合

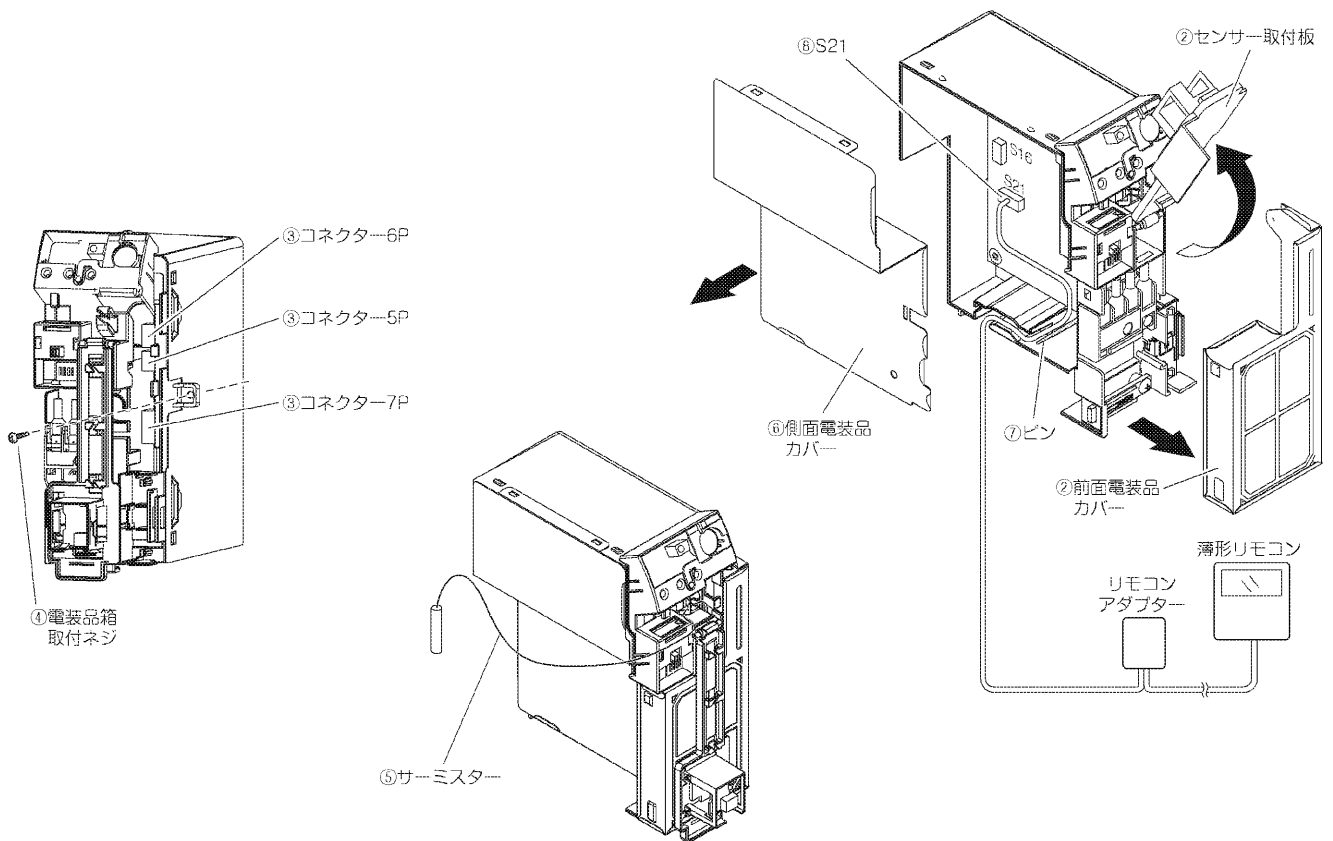
●薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。

- ①前面グリルを取り外します。
- ②センサー取付板を開けて、前面電装品カバーを取り外します。
- ③電装品箱のコネクター3個(5P、6P、7P)を取り外します。
- ④電装品箱取付ネジ1本を外し、電装品箱を取り外します。
- ⑤サーミスターを取り外します。
- ⑥側面電装品カバーを取り外します。
- ⑦電装品箱内のピンをニッパーなどで切り取ります。
- ⑧リモコンコードを電装品箱の切欠部に通して、「S21」コネクターに接続し下図のように引き回します。
- ⑨側面電装品カバー、サーミスターをもとどおり取り付けて、電装品箱を取付ネジ1本で固定します。
- ⑩コネクター3個(5P、6P、7P)をもとどおり取り付けます。
- ⑪リモコン切換スイッチ(SW2-2)を「ON：ワイヤード」にします。

(室内ユニットの据付け⑥ 2 上吹制限スイッチの切換え)を参照してください。

- ⑫前面電装品カバーを閉めて、センサー取付板をもとどおり取り付けます。
- ⑬前面グリルをもとどおり取り付けます。

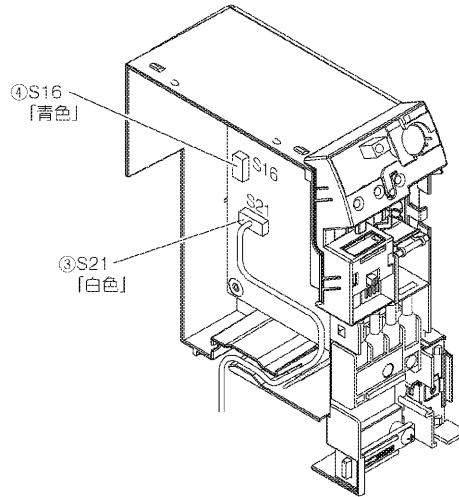
●薄形リモコン(リモコンアダプターは薄形リモコンに付属)およびリモコンコード(4芯)は別売品です。



必要な
ときに

HAシステムと接続する場合

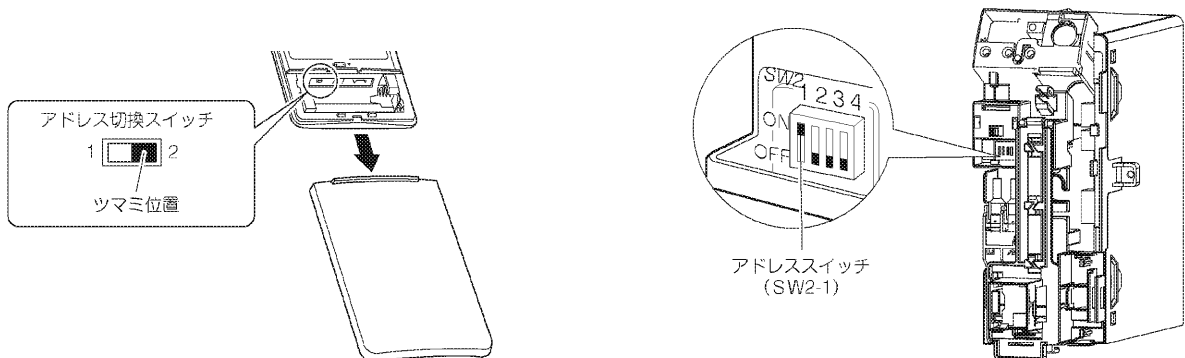
- ①前面グリルを取り外します。
 - ②電装品箱を取り外します。
(**薄形リモコンを取り付ける場合** を参照してください。)
 - ③接続コードをS21コネクタに接続します。**[HAの場合]**
 - ④接続コードをS16コネクタ(青色)に接続します。
[JEM-A規格対応HAの場合]
 - ⑤もとのとおり電装品箱を本体に挿入し、接続コードを室内ユニットの外に出します。
(**薄形リモコンを取り付ける場合** を参照してください。)
- リモコン切換スイッチ(SW2-2)は「OFF:ワイヤレス」です。(工場出荷時のまま)
(**室内ユニットの据付け**⑥ **2** **上吹制限スイッチの切換え** を参照してください。)



必要な
ときに

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合

- 同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを「2」に設定変更してください。
- ①前面グリルを外します。(ネジ4本)
 - ②室内プリント基板上にあるアドレススイッチ(SW2-1)を「ON:2」にします。
(**室内ユニットの据付け**⑥ **2** **上吹制限スイッチの切換え** を参照してください。)
 - ③リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にします。



試運転と確認

- **システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ① コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様どおりか確認します。
- ② 試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。
冷房運転のときは設定温度のいちばん低い温度に、暖房運転のときはいちばん高い温度に合わせます。
 - 室内温度によっては冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。
 - 試運転後には適切な温度に戻してください。(冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃)
 - 停止後約3分間は製品保護のため、次の運転を行いません。
- ③ 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認します。
- ④ アドレススイッチ、リモコン切換スイッチ、他室スイッチ(他室運転機能つきマルチのみ)および上吹制限スイッチの設定を確認します。
- ⑤ エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。
据付け後、お客様がすぐには使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるため、ブレーカーを切ってください。

リモコンでの試運転のしかた

- ① 「運転/停止」ボタンを押します。(運転開始します。)
- ② 温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押します。
- ③ 「運転切換」ボタンを2回押します。(7が表示され試運転モードになります。)
● 試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

注意

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスがけ時には、エアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか。(ガス管、液管、室内側のドレンホース)	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしましたか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認しましたか。	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)は出ませんか。	別売品ドレンホース用逆止弁使用
<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実に行いましたか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 電線は仕様どおりですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていませんか。 <input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	冷えない・暖まらない
<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認しましたか。	運転不能

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

- この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください。)

